全国の石けん運動のはじまり

第 2 次世界大戦後、高度経済成長期には石油化学工業技術が発展しました。家庭への洗濯機の普及とともに、急速に生産量を伸ばした合成洗剤は 1963 年頃には石けんの生産量を上回りました。

合成洗剤の使用量増加に伴い、主成分である難分解性の界面活性剤 ABS によって、全国の河川や下水処理場が泡立つという社会問題が起こり、健康被害報告や研究者による ABS の有害性指摘もありました。合成洗剤メーカーは界面活性剤を ABS から LAS に変え分解性を良くしましたが、有害性がなくなったわけではありませんでした。洗浄力を高めるために添加したリン酸塩は河川・湖沼・海の富栄養化という大きな問題を起こしたため、全国各地で合成洗剤をやめてせっけんを使おうと消費者運動が活発になりました。